

STEP!

両生類の

乱 獲 危 機 警 戒

近年ネットオークションなどの商業目的による乱獲が、日本の両生類の絶滅のリスクを高める要因となっています。

【両生類】とは…

子どものときは水の中でえら呼吸をしながら暮らし、おとなになると手足が生え、陸上にあがつて肺で呼吸をするいきものです。カエルやイモリ、サンショウウオなどがあります。

詳しくは
裏面を Check !!

かわいいで
うらないで



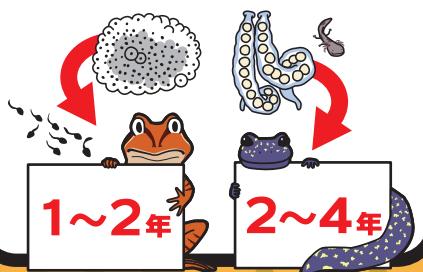
ご存知ですか？

日本の両生類がいま、危機に瀕しています。

いまなぜ両生類の商取引が問題なの？それにはこんな理由があるのです。知って欲しい、日本の両生類のこと。

大人になるまでに時間がかかる

両生類はたくさん卵を産みますが、**大人になれるのは、ほんの少しです**。しかも小型のカエルでも**大人になるのに1~2年**、サンショウウオの仲間は**2~4年もかかります**。やっと大人になれたのに乱獲されると、子供を残せず数が減ってしまいます。



移入による多様性の消失・病気の持ち込み

同じ種でも場所によって体の色や遺伝子に違いがあるので、捕まえた個体を他の場所に逃すと、その場所の特徴が変わってしまい、**本来の多様性がなくなります**。また野外にない**病気を持ち込んでしまう可能性**もあります。



採集するときは、保護されている種でないか、採集して良い地域なのか確認し、個人で無理なく飼育可能な数だけを採集しましょう。

産卵は年に1回だけ

多くの両生類のメスは**年に一度**、一部のサンショウウオは**年に二度**しか産卵できません。そして特に早春に産卵する仲間は、一年に一度だけ、しかも短期間に一斉に産卵するため、集まった大人や卵を乱獲すると、回復できないほど数が減ってしまいます。



岐阜大学・淡水生物園（在来水生生物保全池）のヤマトサンショウウオ幼生の放流の様子。岐阜高校、岐阜大学、岐阜市役所、水族館が連携して“地域の宝”を守る取り組みが行われています。

生息環境の悪化と外来種による影響

多くの地域で、開発、増えたシカによる食害、雪解け水の減少などにより**生息環境が悪くなっています**。最近は野生化したアライグマによる捕食も問題になっています。その上に乱獲が重なると、急に数が減って、**その場所では絶滅してしまうこともあります**。



希少種の保全

分布が限られている種や、生息数が少ない種は法律や条例で保護されており、**捕獲したら罰則**がある場合があります。

